

今こそブレイクスルー！
すべての労働者の立場に立った働き方を実現しよう！



2019春季生活闘争ニュース

2019. 2. 18 第2号 発行責任者 連合北海道組織労働局

— 2019春季生活闘争 第5回医療(看護師)職場の意見交換会 — 『改善点がわかった』、病院の垣根を越えて学び合う

連合北海道は2月14日、今年で5回目となる「医療(看護師)職場の意見交換会」を札幌市内で開催した。会には産別や地域の病院単組から看護師を中心にコメディカルや事務職など23人が参加、各病院の実態報告や円滑な人間関係を構築し、働きやすい職場をつくることをテーマとする学習会・分散会を実施した。その後、懇親会を開催し参加者の交流を深め、再会を約束した。

参加者からは、意見交換について「他の病院の情報がわかり、自分の病院と比較することができた。改善点もわかって良かった」、学習会では「他者をまず認めるという、忘れがちなことを思い出して良かった」「他者を理解することは重要と思っているが、なかなか実践できないので、今日の学習会の内容を行ってみたい」、「自分の強みを再確認する機会となった。今後活かしていきたい」などの報告があり、今回の意見交換会も、産別・病院の垣根を越えて学び合う貴重な場となっていることが改めて確認された。

◆職場の実態を情報共有

意見交換会では6産別1地域の12病院労組・支部から、各病院における有給休暇の取得状況や時間外労働の現状など、職場実態を報告した。

時間外労働では一部の職場で昨年より増加していること、病床稼働率を上げるための診療科以外の患者受け入れ(ベットコントロール)で負担感が増したこと、共通した課題としては、1人あたりの夜勤回数が増えていることなどの課題が挙げられた。また、昨年に引き続き、上司からのパワーハラスメントへの対応に苦慮していることや時間外勤務手当の未申請がある実態も報告された。一方、こうした課題に労組が中心となって対応している状況も報告され、今後の活動に有効な情報共有が図られた。



◆職場風土の改善は「承認」から

学習会は「自己と他者の承認を通じ、違いとつながりを知る」と題して、北海道医療勤務環境改善支援センターの富樫真紀子アドバイザーによる講演を実施。富樫さんは「人を“承認(認める)”することが、メンタルヘルスを向上させ、人間の潜在能力を引き出すこと、また、それが職場風土の改善、組織のパフォーマンス向上につながる」と語った。



その後は研修実践として、富樫さんをファシリテーターに6つのチームに分かれ、「持ち味カード」(※1)を使った分散会を実施。まず、キャリア、ジョブ、マネジメントに分類された70枚のカードから各自に適合するものを選び出し、自己理解と他メンバーの理解を深めた。その上で、チームごとに共有するカードを選び、チームとしての行動基準(例えば、傾聴力を高める、段取りを重視するなど)を作成・発表、チームワーク強化やチーム間の相互理解の手法を学んだ。

(※1) = 研修ツールの一つ。カードを選び自分の持ち味を「目に見える化」するもの。



2019春季生活闘争・統一地方選挙・参議院選挙 勝利！

3. 5 全道総決起集会

日時／2019年3月5日(火) 18:00~19:30

場所／わくわくホリデーホール(中央区北1西1)

Action!

36